

特集：グラウンドのひかり



「中学高校体育祭 応援合戦」

「ドン・ボスコの笑顔」

校長 末吉弘治

アシステンツァ。私たちの学校の精神を最も言い得た言葉です。子どもたちと共に過ごし、その子が一番、輝く瞬間をアシストすること。それがサレジオに集う教師たちの願いなのです。子どもたちが主役、教師は引き立て役という訳ですが、不思議なことに、児童生徒よりも先生の方が、目立ってしまうことも少なくありません。

その点、「子ども自ら」を強調する文科省指針とは、少し違っているのかもしれませんが、もちろん学びの主体である子どもたちが、実感を伴った体験をする事には変わりないです。しかし、教師が子ども以上にわくわくして臨み、子どもが出来た瞬間に教師こそが大喜びをする。そして、次の挑戦の場にまた寄り添っていき、そんな熱さがアシステンツァにはあります。過干渉とのご指摘も聞こえてきそうですが、決して

手出しはいたしません。期待を込めて子どもを見守ります。どれだけ近くで教師が見守ったとしても、行動をしたのは子ども自身。成し遂げたことが次につながるのです。

私は、教育にとって一番重要なのは「一人前扱い」を繰り返すことだと思っています。小学生には、自分で出来たという成功体験の繰り返し。中高生には、善に向かうための小さな選択肢の繰り返し。「一人前」でないからこそ、教師が見守る。でも、「一人前扱い」だからこそ、教師は子どもたちと同じ目線に居て応援する。やがて、自分自身で正しい判断のできる良き社会人へと成長していってくれると私は確信しています。

今日も、サレジオの運動場では、子どもたちと教師の笑顔がはじけています。教師の笑顔を引き継ぐ子どもたち、それがアシステンツァ。

「Assistenza」（アシステンツァ）教員が子ども達と「共にいる」という意味で、サレジオで最も大切にされている言葉です。精神的にはもちろん、空間的にも子ども達と「共にいる」ことを大切にしたいドン・ボスコは、よく学舎をとび出して、子ども達と一緒に遊んでいました。砂埃を巻き上げサッカーの応援をしたり、木漏れ日の森をかけまわったり。それと同じくらいにまぶしい光景が、日々、私たちの学園の小さなグラウンドでも、広がっています。今回の特集では、幼、小、中、高それぞれにおいて、教員と子ども達、あるいは子ども達同士が、どのように「共にいる」のかをご紹介します。

まずは幼稚園です。元気な園児の声が、芝生の園庭から響いてきます。

登園して身支度を済ませると、「〇〇くん外行こうよ！！」と誘い合って園庭に行き、友達と遊びを楽しみます。その中で、トラブルもありますが、そこから様々な事を学んでいる子ども達です。時には、年長さんが年少さん、つぼみさんの手を引っ張り視線を合わせて一緒に遊んでいます。そうして、小さい子ども達は遊び方などを学んでいるのだと思います。



体操教室では、日吉先生と一緒に様々な事に取り組んでいます。友達と一緒に身体を動かす楽しさを感じながら、少し難しい事にも挑戦しようとする強い心で頑張っています。



星の子広場のお友だち（未就園児）と一緒に遊びながら、小さいお友だちに優しくする事の大切さを学んでいます。星の子広場のお友だちも「また、遊びに来たいな！」と大満足しています。

教師にとっての園庭は、子どもと一緒に遊びながら、信頼関係を築き、“個性”を見つけていく大切な場、又私たちの教育の根底にあるアシステンツァにならい、一人ひとりに寄り添いながら、成長を援助し、見守っていく場となっています。これからも、園庭でたくさん笑って、泣いて、怒って、喜んで… 様々な発見をし、互いに成長し合っていくことができればと思います。

小学生になると、遊具施設で様々な動きにチャレンジしています。

今年度、遊具広場に木製の一本橋が新しく仲間入りしました。この一本橋での「ジャンケンゲーム」が子ども達のお気に入りの遊びです。2時間目と3時間目の間にある「業間運動」の時間のことです。3年生が遊んでいる姿を、少し離れた所から1年生がじっと見ていました。それに気づいた3年生は、「一緒に遊ぼう。」と、さりげなく自分の前に1年生を迎えていました。少し遅れて「入れて。」と2年生も来ま

す。3年生の「いいよ。」という返事に笑顔で列の後ろに並びます。そんな小学生の姿を、遊具広場の横を通った幼稚園児が、葉っぱを拾う手を止めて、「小学生は楽しそうだなあ。」と眺めています。遊具広場で、子ども達はお互いに大切なことを学んでいます。



異学年の交流は、朝の運動場でも見られます。

「先生、入ってもいいですか。」子ども達の朝は早い。「入っていいよ。」という声を合図に、グラウンドが子ども達の声でいっぱいになります。5年生が鬼ごっこを始めるとすぐに、2年生や6年生が「入れて。」とやって来ました。低学年と高学年の足の差は歴然です。しかし、低学年が鬼になっても、必ず誰か高学年の子がつかまります。誰に言われるでもなく、自然とそうなるのです。つかまえた低学年の子は得意顔。その姿を優しい笑顔で見る高学年の子ども達。こんな瞬間を見ることができるのも、アシステンツァの特権です。



昼休みになると、小学生を見守っているのは、教員ばかりではありません。

昼休みは、小学校・中学校高等学校がそれぞれわずかな時間差をとったスケジュールで昼食・清掃を済ませます。中高生ともなると、委員会の集まりや部活動の準備などに忙しく動くうち、あっという間に昼休みは終わってしまいますが、それでもやはり、昼休みくらいグラウンドで思いっきり身体を動かしたいと思うのは当然のことといえるでしょう。

ただ、実際にグラウンドに出て遊んでいるのは小学生たち。身体が大きく力も強い自分たちが、小学生と一緒にグラウンドで遊ぶのは危ないということを、中高生たちは理解しています。昼休みのグラウンドは、小さな妹・弟たちのために空けておく。それは、小さな敷地に4つの校種が併設されている本学園ならではの決まりごと。

「ねえ、あの子さっきからすごくがんばってるんだよ！」ドッジボールで最後まで内野に残っている小学3年生くらいの男の子を、高校生のお兄さんお姉さんたちが教室から応援しています。お天気のいい日の昼休みには教室のベランダに出て、高校生たちは、歓声をあげて走り回る小学生たちを見守ります。ドッジボール・長縄・鬼ごっこ。小さな頃は自分もあんな風に思いっきり笑い転げたり泣いたりしてたっけなあ。グラウンドを見おろしながらあったかい気持ちになれるひときは、高校生にとっても至福のひとき。

球技大会や体育祭のときには、この小さな妹弟たちが、応援に駆けつけてくれることもあります。『青組さん、頑張れ!』『お姉さん、負けないで!』そんな無邪気な声に、百人力を得てがんばってしまう高校生もたくさんいます。

勝負と友情と新しい「きずな」

中学高校体育祭・応援合戦
10月18日(金)

今年も、グラウンドを熱くする真剣勝負が繰り広げられた中高体育祭。サレジオの体育祭名物といえば、やはり中学生高校生が一つになって全身全霊でぶつかり合う、応援合戦です。

本校の体育祭は中1高1生、中2高2生、中3高3生がそれぞれペアになって「緑組」「青組」「赤組」を結成する独特のスタイル。学年の大きいほうが、「断然有利」と思われますが、毎年2年生1年生の必死のがんばりがあり、そうやすやすと3年生に優勝がもたらされるというわけでもありません。ときには低学年に優勝カップをさらわれることもあるのです。

そんな中でも、「応援合戦」の勝負は特別。お互いに顔を見知っているかいないかという高校生と中学生とが、体育祭の数日前に初めて一堂に会し、当日5分間の演技時間を一糸乱れぬパフォーマンスに仕上げるために、短期間のうちに見事に「一つ」にまとまっていきます。まとめあげるのはリーダーとなる運動部の生徒たち。教員はほとんど手も口も出しません。構成・演出、練習計画、BGMや小道具の準備まで手配しながら、文字どおり猛練習を重ねる姿は、まさに「青春」そのものです。

今年、応援合戦を制したのは、中3高3生の赤組。構成や演技のまとまりもさることながら何より観衆が魅了されたのは、演技する生徒たちのはじけるような笑顔でした(表紙の写真をご覧ください)。こうして先輩たちの輝きが後輩たちの胸に刻まれ新しい「きずな」がうまれて、年毎にいつそう鮮やかな応援合戦が受け継がれていきます。



伝統の心を受け継ぐ

クリスマス清掃12月16日(月)
クリスマス会12月20日(金)



サレジオ生にとっての「クリスマス」は、「自分を取りまくすべてのものへの感謝」を表す日です。地域の方への感謝の気持ちを表すための「クリスマス清掃」も、本校伝統のクリスマス行事のひとつ。今年も寒風吹きすさぶ中、草薙駅周辺から国道沿いにかけての広い範囲を、くまなくお掃除しました。道行くご近所の方に「がんばって」「ありがとう」と声をかけていただくと寒さも吹き飛び、きれいになった街並みをまぶしく感じて、今年の清掃が終了しました。

20日は学校も冬休みに入る締めくくりの一日。幼子イエスの誕生を祝い、またこの一年を無事に過ごせたことを、お互いに感謝するクリスマス会では、上智大学主催の英語スピーチコンテストに出場した高校3年永井さくらさんが登壇。貧困と教育の問題をテーマに、日々忘れがちな豊かさへの感謝と、若い世代が自発的に国際貢献の方法を模索していくことの大切さを美しい英語で訴えました。昨年から披露されるようになった有志の生徒による朗読劇も、一段と熱のこもったものとなり、平和を祈り感謝する伝統の〈サレジオ・クリスマス〉に、新たな1ページが加わりました。



フィリピン30号台風 緊急支援に学園が一致団結！

11月18日(月)～22日(金)

ニュースでも大きく報じられた、フィリピン台風30号の甚大な被害。本校が毎夏研修で訪ねているネグロス島北西部でも大きな被害が出たことや、首都マニラの姉妹校ドンボスコスクールが各地から避難してきた人々の収容に追われていることを知り、私たちサレジオ生は、立ち上がりました。

中心になったのは10年来フィリピンの子どもたちの就学支援を続けている国際ボランティアVIDES静岡ジュニアのメンバーと、この夏フィリピン研修に参加した有志達。そしてボランティア委員会からもほぼ同じタイミングで「緊急支援募金をしよう」との声があり、学校をあげた募金活動が展開されました。

「フィリピンには私たちの友達がいる」文房具や衣類の物資援助に日ごろから積極的に協力する生徒が多い本校では、そんな想いがなおさら強かったのでしょうか。募金活動は目を見張るような勢いでひろがり、クラスごとの校内募金・有志78名による街頭募金以外にも、報道で本校の活動を知ったという一般の方や、ご父兄、先生方からもたくさんの寄付を頂きました。特に本校に寄付金付き自動販売機を導入して下さった中央静岡ヤクルト販売の皆さまからは、ひときわ大きなご協力をいただき、おかげ様でネグロスの子どもたちへクリスマスプレゼントを贈ることもできました。

私たち、サレジオ高校の活動に対して、信頼と応援を寄せて下さる方がたくさんいらっしゃることに励まされ、これからもフィリピンの復興のためにできることを、少しずつ続けていこうと思います。

ご支援いただいた皆様

本当にありがとうございます。

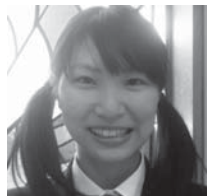


栄光の記録

輝く未来へ・広がる世界へ
飛翔するサレジオ生

上智大学総合人間科学部 心理学科へ進学

塩谷まなみさん



高校1年の頃から憧れていた志望校に進学します。国際色豊かな環境の中で、大好きな英語での講義やディスカッションをとおして心理学の専門知識を身につけ、知育玩具の開発や発達心理学のスペシャリストになれたらと思います。がんばります。

上智大学神学部 神学科へ進学

齊藤 玄くん



命や神様の存在について、幼い時から関心を持っていた僕は、サレジオで一つの答えを得ることができたと思っています。世界中の様々な価値観や文化が平和的に融け合い共存できる方法を探そうと神学部を志しました。いつか母校サレジオへ宗教の教師として戻りたいです。

関西学院大学総合政策学部 総合政策学科へ進学

合月 七海さん



『社会貢献』という言葉をもとに、自分の進路として意識したのは高2のフィリピン研修がきっかけでした。大学で学ぶことで、具体的にアジア諸国の経済格差問題や連鎖する貧困の解決法を学べると期待しています。技術や資金の提供だけでなく、希望のもてる社会作りに貢献したいと思っています。

エスパルス・期待の新人GK

高木和 徹くん、 がんばって下さい！



本誌でもたびたび活躍ぶりを取り上げてきた高木和くんが、ついにプロ選手としての道を歩き始めます。本校在籍中のエスパルスユース選手たちみんなの目標として、またサレジオでともに過ごしたすべての生徒たちの希望として、一層の活躍をお祈りします！

中学校

中学3年生 京都・奈良研修旅行報告

11月12日から15日まで3泊4日で晩秋の古都を訪れ、日本の歴史や文化に触れ、級友との親交を深め、実りある研修旅行となりました。



色々な所をまわり一番に思ったのは、寺・神社ともに上手に自然を取り入れて借景などとして使っていることだ。日本人らしいと私は思った。例えば金閣寺は、衣笠山を借景とし、鏡湖池でもう1つの金閣寺を映し出し、金閣のみよりもとてもきれいだ。また、寺の中の銀杏の木は、火事の際に燃えにくくするためという素晴らしい知恵が隠されていた。こうした、自然との共生のための考えに感動した。

(中3A M.T.)

薬師寺のお坊さんにはとても驚かされました。関西人のせいなのか、ギャグを入れてきて寺について話してくれました。「面」についても話してくれました。「面」が倒れると「面倒」になり、「面」を上げると日の光が当たって顔が白くなるから「面白い」になり、顔を上げれば面白い世界が広がると教えてくれました。もう一人のお坊さんの言葉で心に響く言葉がありました。「面倒臭くなるのは誰のせいだ、先生か、親か、友達か、社会か、いや違う、自分だ。これからの社会を背負っていくのはお前たちだ。」と言われました。頑張らないといけないと思いました。

(中3B N.S.)

中学2年生 いよいよニューヨーク研修へ

サレジオステージ1期生にあたる中学2年生は世界をつなぐ人になる準備の一つとして本校初のニューヨーク研修を行います。今回は行程に沿いながら研修内容を皆様にご紹介したいと思います。

【3月19日(水)】

17:45 成田空港から出発

17:35 ニューヨークに到着

時間が逆戻りするなんて不思議な感覚ですね。

【3月20日(木)】

①セントパトリック大聖堂での祈り

全米最大の聖堂。私たちの日常の祈りが世界共通であることを感じて来ます。

②国連日本政府代表部訪問

日本政府の代表として働いておられる方のお話を聞き、私たちが今できることや将来に向けて準備すべきことを考えます。

③グランドセントラル駅で昼食

東京駅と姉妹提携した歴史あるこの駅でニューヨーカーと同じ昼食を体験します。

④国連本部見学ツアー

国境を越え世界全体の平和のために各国が集まる場所で自分の将来を考えます。

⑤ロックフェラーセンター展望台

ニューヨークの街並みを一望できるこの場所でニューヨークを体感します。

【3月21日(金)】

①姉妹校との交流

同じドンボスコの教育を受けている姉妹と出会い、等身大の日本・等身大のアメリカを伝え合います。

②メトロポリタン美術館またはアメリカ自然史博物館見学

中学校

世界に誇る美術館・博物館を事前に調べどちらを訪問するか自分たちで決めます。

③グランドゼロ訪問

テロで犠牲となった人とそのご家族のために祈り、平和について考えます。

【3月22日(土)】

①自由の女神と記念撮影

アメリカのシンボルがあるリバティ島に上陸し、アメリカの歴史を学びます。

②ブロードウェイでミュージカル鑑賞

ブロードウェイにおいて最多観客動員数を誇る「オペラ座の怪人」を鑑賞し、本物と出会う感動を体験します。

【3月23日(日)】

11:35 ニューヨークを出発

【3月24日(月)】

14:45 日本に帰国

準備が進むにつれ、研修旅行がますます楽しみになってきました。有意義な研修となるよう、お祈りで支えてください。帰国後、皆様に研修報告をさせていただきたいと考えております。ご期待ください！



中学1年生 ボランティアデビュー

中学生になると、自主的に様々なボランティア活動に参加する機会が増えます。あしなが学生募金、フィリピン台風被災地への支援募金など、街頭募金に参加する生徒も少しずつ増えてきました。上級生を見習い、恥ずかしさを乗り越えてどんどん大きな声で呼びかけができるようになります。

12月8日に静岡市の青葉通りで行われた盲導犬育成支援募金では、参加したサレ

ジオ中高生25名のうち11名が中学1年生でした。今年度の1年生は、新入生研修から早速、社会に貢献できる人を目指すサレジオの精神を学んでいます。緑化活動として土木作業を手伝ったほか、盲導犬訓練センターを訪問して視覚障害者への心配りや、盲導犬の働きについて教わりました。そうしたことから、障害への理解とともに盲導犬育成への関心や意欲が芽生え、ボランティア精神がはぐくまれてきたのでしょうか。

他にもこの1年でずいぶん色々なボランティア活動をしています。5月にはサレジオ小5・6年生と一緒に福祉施設に届けるための古着を裁断してウエスを作る作業と、エコキャップの分類選別作業を学年全員でやりました。総合学習では暑中見舞いとクリスマス・お正月のカード作りを通して、福祉の心と自分たちにできることが何かを考え学んできました。そしてそれが、次のステップとして自主的参加の活動につながっています。先に挙げた街頭募金のほか、手作りカードを届ける施設訪問や、ハンセン病療養所夏祭りの手伝いボランティアなど、自主参加のボランティアに参加した生徒が中1生では53%と半数以上。いくつもの活動に何度も参加している人もいるので、延べ人数では50人になります。これからもますます意欲的に参加する人が増えてほしいと願うとともに、友人を誘ったり、自分たちでボランティアを企画して呼びかけたりできるように成長していったほしいと期待しています。



小学校

小学校の朝の持久走のはじまり

旧清水市の星美小学校時代、バスケットボール・体操・陸上の各大会があり5・6年の運動好き児童にとっては目標の一つになっていました。小学校には朝の持久走があります。今は1～4年ですが、昔は小学生全員が



走っていました。持久走が始まった理由を先輩教員から聞いたことがあります。長距離（男子1500m）の学校代表として出場した児童が他校選手から周回遅れ、なんと400m以上も離されることがあり、選出された児童・保護者ともども「恥をかく」と代表を辞退するということがあったそうです。学校としてこのような状態を改善し、自校の子ども達の体力を他校と互角・それ以上に鍛えあげ、競い合える力をつけ、自信をもたせてやりたいと考えるのは当然でした。毎朝担任と一緒に外に出て走ることが提案され、実行に移されました。しばらくすると「継続は力なり」で短距離は勿論のこと、長距離でも優勝者を出すまでに学校全体の体力が高まってきたのです。しかしこの陸上大会も現在本校で体育を指導しておられる渋谷先生が6年の障害走で優勝した大会が最後となりました。

渋谷先生は私の記憶に残る限り、校内持久走記録会6年連続優勝を成し遂げたただ一人のOGです。走ることはすべての運動の基礎です。暑い日も寒い日も、毎朝大きな声で体操し、元気に運動場を走る子ども達は、知らず知らずのうちに逞しい強い子どもに成長しています。

渋谷先生は私の記憶に残る限り、校内持久走記録会6年連続優勝を成し遂げたただ一人のOGです。走ることはすべての運動の基礎です。暑い日も寒い日も、毎朝大きな声で体操し、元気に運動場を走る子ども達は、知らず知らずのうちに逞しい強い子どもに成長しています。



業間運動の願い

2時間目が終わると子ども達は、すぐに帽子をかぶって、外へ出る準備をします。一秒でも早く、体を思い切り動かしたいようです。



プライマリーには、2時間目と3時間目の間に20分間の業間運動の時間があります。

低学年では、様々な運動を経験させ、動きの幅を広げるようにしています。たとえば、高さに慣れるためにジャングルジムで遊んだり、登り棒を登って自分の身体を支えることができるようにしたりしています。鉄棒では、くるっと前回りをしたりこうもりでぶら下がったりして、逆さ感覚を身に付けたりもしています。



中学年になると、手足の運動が発達してくるので、リズムカルに動くできるようになります。特に鉄棒では、後方支持回転やひざ掛け回転などに挑戦しています。できた時の喜びは満面の笑顔です。冬の寒い時期は、なわとびに挑戦しています。

あやとびや交差とびが何回でも続けて跳ぶことができます。二重とびも、子ども達は大好きです。また、クラスのみんなで行う長なわでは、8の字回旋で何回跳ぶことができるか挑戦しています。

これからも、業間運動で、様々な動きを身に付け、子ども達一人ひとりが、身体を動かす楽しさを味わい、体力の向上につながってほしいと願っています。

課外体育・サッカー部&ダンス部

ドン・ボスコは、青少年教育において、音楽と運動をとっても大事にしました。子ども達は、本来元気が有り余っているものです。そして、そのエネルギーをよい方向へ使うために音楽と運動が必要だと考えたのです。しかし、ただ運動をすればいいのではなく、運動を通して、友達関係や教師と子どもの信頼関係を築いていくことが最も大切なことだと思います。だから、小学校の課外体育でも、指示をするだけ、運動させるだけでなく、お互いの心が通い合う生き活動になるよう、アシステンツァ（共にいる）の精神で共に体を動かしながら活動に取り組んでいます。



今年度より新設された小学校ダンス部は、練習内容や練習方法を子ども達と模索しながら共に作り上げている最中です。そのような中、年末にミニ発表会を行いました。いつも使用している教室、そして決して多くはない観客でしたが、当の本人達は緊張してガチガチになっていたり、興奮していたり、それぞれがこの発表会に真剣に向かいあっていました。観客からは「良かったよ」「上手だったよ」と褒めてもらい、子ども達も嬉しそうでした。中でも「とっても楽しそうだったよ」という声が多く、発表した子ども達からも「楽しかった」という声が聞こえてきました。技術を向上させることはもちろん大事ですが、何よりも一人ひとりが“楽しい！”という気持ちを神様からいただいた体と心でいっぱい表現し、周りの人たちにも楽しさや喜びを伝えていけるような活動を目指していきたいです。

子どもの声から学びが見える!!

「先生、残ってやってもいいですか？」
「先生、見て下さい！」



中学年は体育の授業が終わっても、まだまだ物足りないかのように体を動かし続けます。中学年ともなると自分の体を思

うように動かすことができるようになる為、最初は出来なかった技もあつという間に出来るようになり、鉄棒の足かけ回りや飛行機とび、マット運動の三点倒立からブリッジ等、いろいろな運動ができる子ども達の姿に驚かされます。またボールゲームでは仲間と作戦を立てながら試合を進めていきます。

仲間と共に運動をする楽しさも味わうようになるのもこの時期で、作戦通りに出来た時や試合に勝った時にはガッツポーズが出るほどの大喜び、またその喜びをチームみんなで分かち合います。

低学年では、様々な運動遊びの中で思いっきり体を動かして運動の楽しさを伝えながら、たくさんの体の動かし方を養います。その為、体を動かすことが楽しくなっている低学年からは「もう終わりですか?」「楽しかった!」などの声がとびかいます。

高学年になると、授業中に「どうしたら、できるの?」「あっ、分かった!!」の声が聞こえてきます。高学年では運動の仕組みが分かるようになり、正しい動きができるようになる為の方法を探すようになります。自分で目標をもって活動したり、仲間と互いに見合い、考えながら身体と頭でより良い運動を身に付けていきます。

児童の発達段階や個々を踏まえながら、これからも精一杯体を動かし、仲間の良さに気づき、互いに励まし合える思いやりの心を持ち、体づくりに向かう子どもを育てていきたいと思っています。

幼稚園

サッカーせんしゅが 遊びにきたよ！

冷たい風が吹く1月の園庭にサッカー選手が遊びに来てくれましたよ！！



サッカーだけではなく、お話をしたり、遊んで触れ合いを楽しみました。とてもかっこいいJリーガーに憧れを感じたり、身近に感じた子

もいたようです。短い時間でしたが、次の日には年少組も「サッカーしようよ！」と園庭に飛び出しサッカーを楽しむほど、印象に残った時間となりました。



また 遊びに来てね！！

だいすき♡おにいさん・おねえさん

幼稚園では、年中組になると、小学校1年生とペアを組んでのなかよしデーがあります。第1回目は幼稚園で好きな遊びを楽しんだり、季節ならではのプレゼントの交換をしたり、今年度も様々な活動をしてきました。



第2回目のなかよしデーは、ペアのお兄さん・お姉さんがくじらぐもの音読を聞かせてくれました。小学生が真剣な表情で読む姿に、子どもたちも静かに聞き入っていました。その後、一緒に白い絵の具を使ってペタペタ手形を押し、大きなくじらぐもを作りました。どこに手形をつけるか一緒に話し合ったり、白くなった手を見せ合って笑い合ったり、楽しむ姿がたくさん見られました。



くじらぐもができあがってから、自分の似顔絵とペアさんの似顔絵を乗せてあげました。



キッズアートの日飾りに飾ってみなさんに見て頂きました。子どもたちの楽しんで作った気持ちを感じて頂けていたら、嬉しいです。

なかよしデーを通して、色々な年齢の友達との関わりの幅が広がったり、ペアさんに対する憧れを持ったり、良い経験となっています。

幼稚園

“幼稚園って楽しい！！” それは、子どもだけじゃない！？

3学期になると、子ども達は幼稚園が自分の場所となり、目的を持って登園し友だちとの関係がかなり深いものになり、それぞれが色々な楽しみ方を見つけています。

しかし、その楽しみを見つけているのは子ども達だけではないようです。

なんと、お父さん、お母さんまでも知らない内に笑い声が高くなっていて、子ども達と同じ位パワーアップし、幼稚園が楽しい場所になっているように感じられます。

カルチャー教室

≪ 3 B体操 ≫



1年に2回、カルチャー委員が様々な企画を考えています。前期は、3 B体操。身体もリフレッシュ！！若さの秘訣がここにありそうです。いい汗かけたでしょうか？

(オープンルームにて)

≪ 観葉植物の寄せ植え ≫

後期はみこころホールにて観葉植物の寄せ植えが行われました。



集中して真剣な面持ちで取り組みながら、同時におしゃべりも楽しんでいます。とても可愛く仕上がっていました。

クリスマス祈りのつどい

クリスマスのお祝いをアルベルト神父様と共にしました。イエス様の誕生をお祝いした



後はランチ会！！お弁当と飲み物で、ワイワイ、ニコニコ。色々な方とのおしゃべりは楽しくて止まりません。あっという間に時間が過ぎてしまいました。

バルーンバレーボール大会

静岡市清水区私立幼稚園PTA連合会が親睦を深める目的で発祥した、ママさんバレー。ビーチボールを使用したバレーボールで経験問わず気軽に楽しめるものです。



バレーしながら、子育ての悩みを打ち明け、身体を動かす事で、ストレス発散にもなり一石二鳥です。いつも、キッチンに立ってお料理をしている姿とは違い、格好いい女性チームです。エプロン姿もいいのですが、ユニフォーム姿は、又違った一面を覗かせています。お母さんは、やっぱり凄い！！

おもちつき大会

おもちをついていると・・・
何と突然、赤、青、緑、ピンクのレンジャーたちが子ども達の目の前に！！
我らのヒーロー“サレジオレンジャー”現る。



☆☆☆お父さん、お母さんありがとう☆☆☆
とても活気あふれる楽しい幼稚園。元気な子ども達になるわけです。でもそれが一番です。

贈り物

父母の会 副会長 立間 浩代

1月5日に成人の集いが開かれ、次女と出席しました。「高校の卒業式からもうすぐ二年経つのだな。あっという間だな。あと二カ月で長男の卒業式、本当にサレジオから子ども達が巣立ってしまうんだな。」

長女が幼稚園のピンク門をくぐり、長男が高校を卒業する今日まで、親子共々本当に色々な経験をさせていただきました。

長女が自分と離れ、知らない世界、知らない時間を過ごしていることの新鮮さ、不安、さみしさ…、シスター、先生方に受け止めていただき新米ママをも育てていただいたんだと随分後になってから気づきました。

初めての父母の会の役員会（ここが私の役員生活のスタート地点です）で、園長先生が「年少さんは、慣れるまでの時間に個人差がありますが、みんな立派に集団に入れますよ。心配しないでいいですよ。」と、笑顔でこちらの方を何度も見るので、「え？うちの子が？」とびっくりしました。役員会のたびにこっそり様子をうかがっていたものです。

小学校では、次女のお友達とのトラブルを担任の先生に「もちろん何かあったらすぐに対処します。でも、お子さん自身で乗り越えようとしているので見守りたいと思います。お母さん、少しの間辛抱していただけますか？」と温かな眼差しと細やかな配慮で守っていただきました。その後の面接で安堵の涙…ということもありました。

クラスメートより少し下校が遅くなる「のこ勉」、夏休みがゆっくりやってくる補習など、本当にお世話になりました。

中学・高校になり、部活に明け暮れている頃、進路に悩んでいる頃、三人とも何度もつまづきました。その度に直接的に、間接的にシスター、先生方に助けていただきました。長い間見守って下さった担任の先生、各教科の先生方、関わりはさまざまでも先生方全員で子ども達を育てて下さっていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。辛い時期があったから気づくことが出来たのだと思います。

幼稚園から高校まで、ドン・ボスコの教えのもと、その時々の体験、経験を積んで成長してこられ、しっかりとしたぶれない物差し、かけがえない贈り物を持って社会へ出ていけるということを子ども達にプレゼントでき、親としての責任を少し果たせたのでは、と思っています。そして、いつの日か子ども達が、自分の本質、よりどころはあの学び舎で築かれたんだ、と気づいたとき、語り合うことを楽しみにしています。



サッカー一部草創期の思い出

53回卒 川田 創

高校時代のグラウンド、というと中学・高校の男子生徒を掻き集め、正式な部活になってもいなかったのに、ほぼ毎日と言っていいほど、放課後、グラウンドで汗を流したことを思い出します。

私が入学したのは共学になった年だったので、高校1年生の男子がわずか5人、中学1年生が20人ぐらいしかいませんでした。そのため、午後になると放課後に向けて参加できる人数の確認を始めて、よく1号館の3階と4階の階段の踊り場で、メンバーが集まるか否かの話し合いをしていたことも思い出します。そして、どうしても人数が足りない時は、若い先生を無理やり誘って参加していただいたものです。

そのころは、サッカーをやるにはグラウンドの土が硬く、滑りやすく、すぐに靴がダメになってしまい、サッカーシューズを年間2足以上は履き潰していました。当時は防球ネットもなく、何回か家庭科室や隣の工場の窓ガラスを割ってしまい、その度に先生方に謝りに行ったことも今では懐かしい思い出です。今では、防球ネットがグラウンド一面に張りめぐらされ、夜間照明も設置されて、運動をしやすい環境になってきているとうかがっております。羨ましい限りです。

高校2年、3年になると後輩も増え、より課外体育も活発化していき、長期休暇中も集まって練習に励むようになりました。そうした学年を越えた交流があったお陰で、卒業して12年もたった今でも、後輩たちと交流があります。今思えば少ない人数だったからこそ仲良くなり、男子の結束が固かったのでしょう。

勉強はもちろん重要ですが、中学生、高校生の年代ではグラウンドで体を動かしたりフレッシュすることも大切です。またグラウンドは友達や教師と交流の輪を広げる場所にもなります。後輩の皆さんも、体育の授業以外にもグラウンドに出て、思い切り体を動かし汗を流して、思い出をいっぱい作ってほしいと思います。



最近のグラウンドの様子